



# 若者へのメッセージ 35

東京大学名誉教授 山内 昌之

## 【第2回】平和のリーダーシップ ——一番好きな歴史上の人物は誰か

高校生を対象としたある調査によると、好きな歴史上の人物は、織田信長が堂々の一位で、二位に坂本龍馬、三位に豊臣秀吉が入り、四位は卑弥呼で、徳川家康は五位だった。前回に続き、信長・秀吉・家康の評価から、歴史を見る眼、現代を考える視点を鍛えていきましょう。

### 戦国の英雄か平時の統治者か

「千金の裘は一狐の腋に非ず」という言葉が中国の歴史書『史記』の中の「劉敬叔孫通列伝」に見える。高価な皮衣は一匹の狐の腋の毛皮だけでは作れないという意味である。国を治めるには多くのすぐれた人物が必要だという喩えである。織田信長・豊臣秀吉・徳川家康の三人には、人材の発見と登用がうまいという特徴が共通していた。

信長は秀吉や明智光秀を高い地位に抜擢している。秀吉は石田三成や加藤清正などの子飼いの部下を一流の官僚と武將にそれぞれ育てた。家康は、三河以来の譜代の家臣団を中心に据えながら、関ヶ原の合戦を機に多数の外様大名を従えて、日本を名実ともに統一することに成功した。しかし、織田は重用した光秀に裏切られ、豊臣は三成と清正との対立で内から滅び、わずかに徳川だけが明治維新まで二百七十年間も長続した。

「高校生が好きな歴史上の人物ランキング」(二〇一〇年調査)によると、一番目の織田信長は三二・八パーセントの支持を受けている。理由は、「かっこいいから」「強いから」「有名だから」「カリスマ性」「改革者として魅力的」「決断力があり、リーダーシップをとれるところ」「天下統一を志し、今の平和な日本の基礎を作った人だ」というからだ。これらは信長の特徴をうまく捉えている。しかし信長には、家康にはない残酷さという個性もある。秀吉も信長ほどでないにせよ、平気で甥の秀次一家を虐殺するなどの苛酷な一面もあった。信長は戦国の英雄としては目立つにせよ、平時の統治者として欠ける場所があった。日本人のような平和を愛する国民が戦国時代や信長を好きだというのは、どうも妙な気がするが、ここがランキングの面白いところなのだ。



家康は意外に健闘している。五位にすべりこみ六・一パーセントを獲得しているからだ。その

理由は、高校生たちによると、「天下統一したから」「長い間続いた江戸幕府の基礎をつくったのはすごいから」「心が広く、穏やかな人だから」「賢い頭脳をもっているから」というもの。家康と江戸幕府の性格をよく言い当てており、私でも同じように答えるのではないかと思う。

天下統一の規模と質は違っているが、三人ともに戦乱で明け暮れた日本を何らかの形で統一に近づけ、実際に統一した点ではさほどの違いはない。家康が一番にもって来た人たちは、二百七十年間も続いた「徳川の平和」(バクス・トクガワナ)の意味をよく理解しているのではないか。

### 平和のリーダーシップ

家康は、戦争と平和と外交の全局面で慎重さと大胆さを同時に発揮しただけでなかった。彼は、平和になってからの統治においても、知識欲と獨創性を失わなかった点で、統治者としてカエサル(シーザー)やナポレオンや秀吉よりもめざましい成功を収めた。古代ローマのカエサルは信長のように、その同僚や部下に裏切られて非業の死を遂げた。ナポレオンは英雄であったが、大戦争を起こしてロシアにまで戦火を拡大した点で、朝鮮半島に二度も出兵して人びと

の命を犠牲にして顧みなかった秀吉と似ている。日本の戦国時代の武田信玄や上杉謙信は戦術家として、十字軍戦争におけるイスラムの英雄サラディンくらいの水準であるが、三人ともに権威(天皇)と権力(將軍)との分離により、独特な幕藩制国家を創った家康の力量と政治的構想力には遠く及ばない。

何よりも、信長には家康という侮れないライバルがおり、秀吉には家康が厳然たるライバルとして控えていた。しかし、家康には家康に匹敵する強力なライバルはいなかったのである。

一見すると、冒頭に挙げた金言と似たような言葉がある。「千羊の皮は一狐の腋に如かず」というものだ(『史記』「趙世家」)。凡庸な人間がたくさん集まっても一人の賢者に及ばないという意味である。

天下を統一した家康には、数え切れないほどの武將が大名として従うことになった。しかし、彼らが束になっても家康を打ち負かせる力を持たなかった。それは武力という数だけの問題ではない。人が平和を望み、もはや戦乱を拒否する新しい時代の流れに家康が一番的確に乗ったからだ。他ならぬ武將・大名たちも、もう戦のない時代を盤石にする役割を家康に期待したのである。家康には信長や秀吉とは異なる平和のリーダーシップがあったといえよう。